



# セキュアプライム UFE 復号ツールマニュアル

暗号化ファイルを利用するために

**株式会社 ティエスエスリンク**

Copyright (C) 2009 TSS LINK, Inc.

## 目次

1. はじめに .....	2
1.1 セキュアプライム UFEとは.....	2
1.2 機能特長 .....	2
1.3 動作環境 .....	3
1.4 利用イメージ .....	3
2. 復号ツールをインストールする .....	4
2.1 インストールする .....	4
2.2 サイレントインストールについて .....	6
2.3 インストールできない環境では.....	7
2.4 アップデートするには.....	7
2.5 アンインストールするには.....	7
3. 暗号化ファイルを利用する .....	8
3.1 暗号化ファイルのしくみ .....	8
3.2 暗号化ファイルを閲覧する.....	8
3.3 内容を編集して更新する(再暗号化する) .....	9
3.4 元のファイルに戻したい時は .....	10
4. 使用上の注意／制限事項 .....	11
4.1 復号処理 .....	11
4.2 再暗号化処理 .....	11
4.3 その他 .....	12

## 商標について

※セキュアプライム、SecurePrime は、株式会社ティエスエスリンクの登録商標です。

※Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※その他記載された会社名、製品名などは、各社の登録商標もしくは商標、または弊社の商標です。

※この製品には、OpenSSL Toolkit で使用するために OpenSSL Project によって開発されたソフトウェアが含まれています。

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit(<http://www.openssl.org/>)

## 1. はじめに

「セキュアプライム UFE」の製品概要について説明します。

※本マニュアルでは、Windows 11 上で使用しているものとして説明しています。ご使用の OS により、画面やコマンド名などが一部異なる場合があります。

※「セキュアプライム UFE」は、旧製品「セキュアポーター for USB」を名称変更したものです。旧製品「セキュアポーター for USB」をお使いのお客様は、本マニュアル内の製品名「セキュアプライム UFE」を旧製品に読み替えてご利用ください。

### 1.1 セキュアプライム UFE とは

「セキュアプライム UFE」は、USB デバイスにコピーされるファイルを自動的に暗号化します。ファイルを自動的に再暗号化する機能も備え、ファイルを社外に持ち出しても安全に守ります。

USB の盗難/紛失でのファイル流出時における情報漏洩を防止します。

### 1.2 機能特長

本製品の主な機能特長は、以下のとおりです。

#### 1) 今お使いの USB メモリー(外部記憶媒体)でそのまま使える

今ある USB メモリーはもちろん、USB メモリーを買い足した場合も追加コストなしで使えるので、運用コストを抑えることができます。

#### 2) 誰でもすぐ簡単に使える

ファイルの暗号化・復号は、パスワード入力だけの簡単操作で誰でもすぐに使えます。セキュリティ対策をお急ぎの方にお勧めです。企業の一斉導入も、ユーザー教育などの負担がなく容易です。

#### 3) USB メモリーにファイルをコピーすると、自動的に暗号化

USB メモリーにファイルをコピー・移動すれば、自動的に暗号化されます。ファイルを一つひとつ暗号化する手間がかかりません。フォルダーごとコピーしても、中のファイルは自動的に暗号化されます。

#### 4) ファイル毎にパスワードを付けて暗号化

ファイルの暗号化時に任意のパスワードを設定できます。また、ファイル毎にパスワード設定が可能ですので、USB メモリーに対するパスワードより安全に利用できます。たとえ USB メモリーを紛失したり(または盗難にあったり)、ファイルが流出しても、パスワードが分からなければ、第三者はファイルを開けません。

#### 5) 暗号化ファイルを開くと、関連付けられたアプリケーションで自動的に復号

暗号化ファイルは通常のファイルを開く場合と同じように見え、使い慣れたアプリケーションでそのままファイルが開くので便利です。

#### 6) ファイルの編集後、自動的にファイルを再暗号

ファイルの編集後、上書き保存で終了すると自動的に再暗号化されます。都度暗号化する手間がかからず、暗号化忘れの心配がありません。

#### 7) 復号ファイルも削除され安心

暗号化ファイル利用時にはファイルを復号していますが、利用後はそのファイルを削除して、安全性を高めています。復元ツールによる情報漏洩を防止します。

## 1.3 動作環境

### ■復号ツールの動作環境

動作環境	対応 OS	Windows 11 Windows 10
	CPU/メモリー	お使いの OS が動作する環境以上

※詳細は弊社サイトの動作環境(<https://www.tsslk.jp/sp/ufe/sysreq/>)をご覧ください。

### ■対象デバイス

- ・リムーバブルドライブ
- ・HDD (USB /IEEE1394 接続)

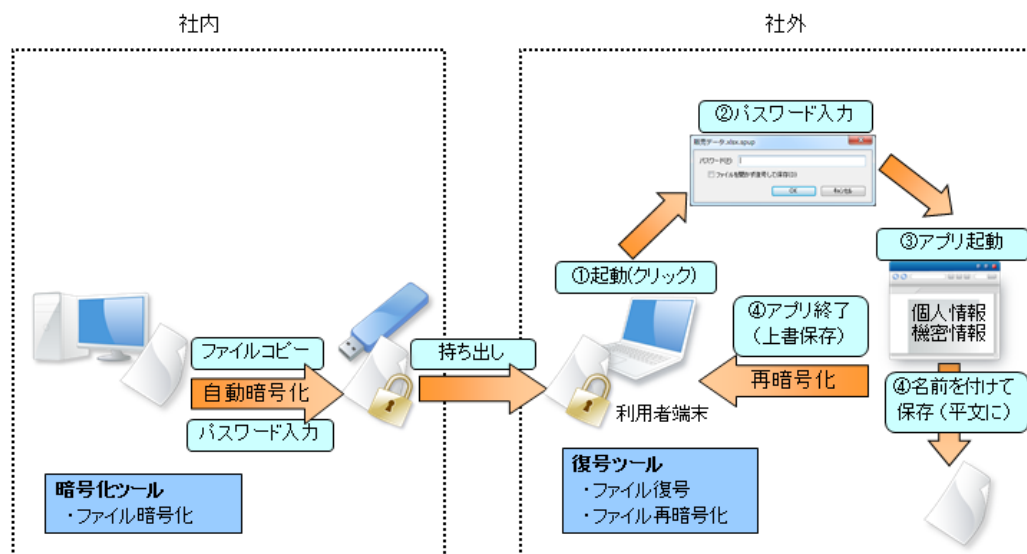
※FD および CD/DVD は暗号化対象外です。

※USB/IEEE1394 接続以外の HDD (例 IDE 接続の内臓 HDD や SCSI 接続の HDD) は暗号化対象外です。

### ■暗号化アルゴリズム

- ・AES 256bit

## 1.4 利用イメージ



## 2. 復号ツールをインストールする

暗号化されたファイル(拡張子.spud)を利用するためには、復号ツールが必要です。復号ツールは、利用する PC にインストールしてください。

### 2.1 インストールする

復号ツールのインストール方法を説明します。

#### 操作

#### 1. インストールを実行します。

復号ツールインストーラー(SpufeDecSetup.exe)を実行し、ユーザーアカウント制御で許可します。

※ログインユーザーのみが利用する場合のインストールには、管理者権限は不要です。インストールしているコンピューターを利用するすべてのユーザーが利用できるようにするには、管理者権限でインストールします。

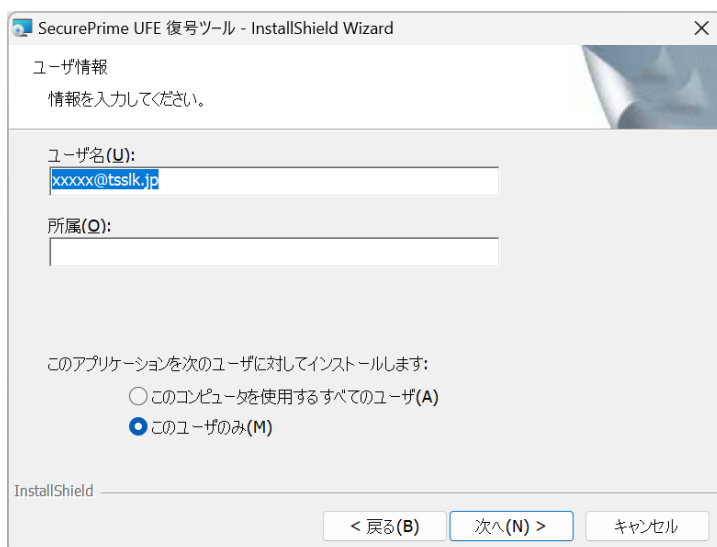
※管理者権限のないユーザーでインストールした場合は、セキュリティ警告画面が表示されるので実行します。



#### 2. 使用許諾契約に同意します。



### 3. ユーザー情報を入力します。



SecurePrime UFE 復号ツール - InstallShield Wizard

ユーザー情報  
情報を入力してください。

ユーザー名(U):  
xxxxx@tsslk.jp

所属(O):

このアプリケーションを次のユーザに対してインストールします:  
☐ このコンピュータを使用するすべてのユーザ(A)  
☒ このユーザのみ(M)

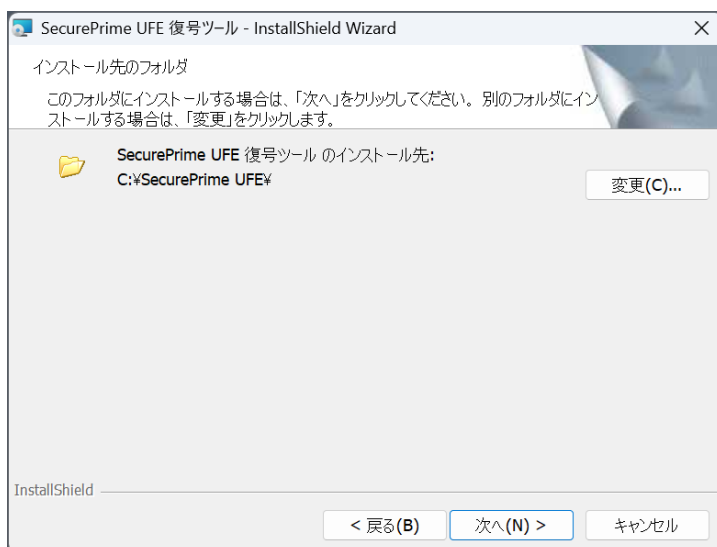
InstallShield

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

※管理者権限でインストールした場合はインストール対象ユーザーを選べます。(管理者権限のないユーザーでインストールした場合は選べません)

- ・[このコンピュータを使用するすべてのユーザ]: インストールしているコンピューターを利用するすべてのユーザーが利用できるようになります。
- ・[このユーザのみ]: 現在ログインしているユーザーアカウントのみ利用できるようになります。

### 4. インストール先のフォルダーを設定します。



SecurePrime UFE 復号ツール - InstallShield Wizard

インストール先のフォルダ  
このフォルダにインストールする場合は、「次へ」をクリックしてください。別のフォルダにインストールする場合は、「変更」をクリックします。

SecurePrime UFE 復号ツールのインストール先:  
C:\SecurePrime UFE¥

変更(C)...

InstallShield

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

インストール先フォルダーを変更する場合は、[変更]をクリックしてフォルダーを設定します。  
※USB メモリーなどの外部デバイスは指定しないでください。

## 5. [インストール]をクリックします。



※デフォルトのインストール先にインストールできない場合は、インストールできるフォルダーを指定します。

## 6. [完了]をクリックします。



これで復号ツールのインストールが完了しました。

## 2.2 サイレントインストールについて

「復号ツール」は、管理者がサイレントインストールを行うことができます。サイレントインストールを行うには、管理者権限が必要です。

インストーラー実行ファイルに、以下のように引数を指定して実行します。

```
SpufeDecSetup.exe /s /v"/qn ALLUSERS=1"
```

※アップグレード時も同様の操作です。

## 2.3 インストールできない環境では

セキュリティポリシー的に復号ツールをインストールできない環境や、持ち出した USB メモリーだけで利用したい場合は、あらかじめ暗号化ファイルと一緒に復号ツールプログラム (spusbdec.exe) を USB メモリーにコピーしておき、暗号化ファイルを復号ツールプログラム (spusbdec.exe) に直接ドラッグ & ドロップして開くことができます。復号ツールプログラム (spusbdec.exe) の標準インストール先は、"c:¥Secure Prime UFE" です。インストール実行後に、インストール先から USB メモリーへコピーしてください。

※仕様の exe ファイルは暗号化対象ですが、弊社 (TSS LINK, Inc.) のデジタル署名が付与されている exe ファイルは暗号化対象外となるため、復号ツールプログラム (spusbdec.exe) を USB メモリーにコピーしても暗号化されず問題なく利用できます。

## 2.4 アップデートするには

復号ツールを新バージョンにアップデートするには、復号ツールインストーラー (SpufeDecSetup.exe) を実行し、アップグレードインストールを行ってください。

## 2.5 アンインストールするには

復号ツールのアンインストール方法を説明します。

### 操作

1. Windows のスタートボタンをクリックし、[設定]-[アプリ]-[インストールされているアプリ] (または「アプリと機能」) をクリックします。
2. 一覧から、[SecurePrime UFE 復号ツール] を選択して「…」(または「縦の 3 点」) をクリックし、「アンインストール」をクリックします。
3. 「このアプリとその関連情報がアンインストールされます。」と表示された画面で、「アンインストール」をクリックします。

※ユーザーアカウント制御が表示された場合は、「はい」をクリックします。  
管理者権限のないユーザーでインストールした場合は表示されません。



### 3. 暗号化ファイルを利用する

暗号化ファイルの利用方法や特徴について説明します。  
暗号化ファイルは、復号ツールをインストールしている PC でのみ開くことができます。

#### 3.1 暗号化ファイルのしくみ

暗号化されたファイル(拡張子 .spud)は、復号ツールをインストールしている PC で開くことができます。暗号化ファイルを直接ダブルクリックするか、復号ツールを起動して暗号化ファイルを選択すると、認証ダイアログが表示され、暗号化した時に設定したパスワードを要求されます。パスワード認証に成功すると、元ファイル(暗号化前)の拡張子に関連付けられたアプリケーションが起動しファイルを開きます。※元ファイル(暗号化前)の拡張子に関連付いたアプリケーションがインストールされていない場合は、暗号化ファイルを開けません。その場合も、パスワード認証後に復号して保存することは可能です。

起動したアプリケーション上では、自由に操作することができます。文書を編集して内容を変更した場合は、起動したアプリケーションで上書き保存を実行しておいてください。

アプリケーションの終了時には、ファイルの更新を自動的に検知し、再暗号化処理が実行されます。わざわざ自分で暗号化する手間がなく、常に暗号化された安全な状態を保つことができます。

#### 3.2 暗号化ファイルを閲覧する

暗号化ファイルを起動して閲覧する方法を説明します。

##### 操作

1. USBドライブ(もしくは[SP 暗号化フォルダ]内)の暗号化ファイル(.spud)をダブルクリックします。

※復号ツールを起動して暗号化ファイルを選択することもできます。

※暗号化ファイルは USBドライブ以外の場所にコピーしても利用できますが、暗号化ファイルを開くために復号ツールが必要です。

2. パスワードを入力して[OK]ボタンをクリックします。

暗号化した時に設定したパスワードを入力します。

3. 元ファイルに関連付けられたアプリケーションが起動します。

※元ファイルを起動するためのアプリケーションがインストールされていない場合は、ファイルを開くことができません。

4. ファイルを閲覧し、アプリケーションを終了します。

暗号化ファイルの閲覧が終わったら、アプリケーションを終了します。

※ファイル編集後に上書き保存終了した場合は、再暗号化処理が実行され、暗号化ファイルが更新されます。

### 3.3 内容を編集して更新する(再暗号化する)

暗号化ファイルの内容を更新したい場合は、起動したアプリケーションで編集した後、上書き保存を実行してからアプリケーションを終了します。

アプリケーション終了時に、ファイルの更新を自動検知し、ファイルが更新されている場合は再暗号化処理が自動的に実行されます。わざわざ自分で暗号化する手間がなく、常に暗号化された安全な状態を保つことができます。

ただし、再暗号化は開いた暗号化ファイルを上書き保存した場合が対象となり、別名保存などでファイル名やファイルパスが変更になった場合は対象となりません。

#### 操作

##### 1. データを編集します。

##### 2. [上書き保存]を実行します。

アプリケーションの上書き保存機能を使って、ファイルを上書き保存します。

##### 3. アプリケーションを終了します。

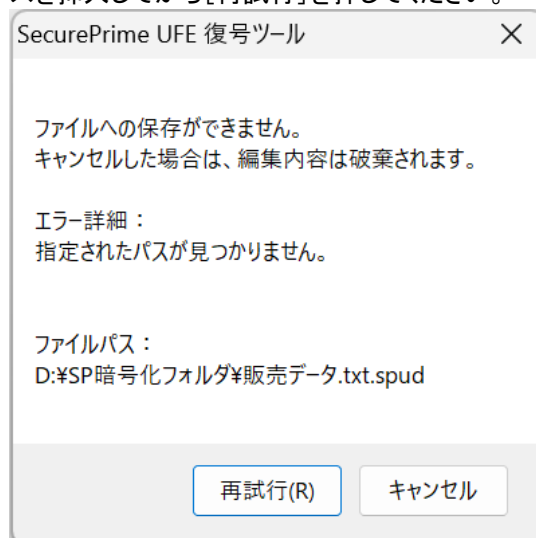
アプリケーション終了時に、ファイルの変更を自動検知し、暗号化処理が自動的に実行されます。

※アプリケーションによっては、終了時の変更検知ができずに、暗号化処理されない場合があります。

※暗号化ファイルが読み取り専用の場合、暗号化ファイルの更新はされません。

※暗号化ファイルが起動した場所(USB デバイスやファイルをコピーした場所)に存在しない場合、暗号化ファイルの更新はされません。

※USB デバイスが挿入されていない場合は、以下のメッセージが表示されます。USB デバイスを挿入してから[再試行]を押してください。



### 3.4 元のファイルに戻したい時は

暗号化前のファイルに戻したいときは、暗号化ファイルを開くパスワード入力画面で[ファイルを開かず復号して保存]を実行することで、暗号化ファイルをそのまま復号して保存することができます。利用アプリケーションを起動しなくても手軽に復号して保存でき、利用アプリケーションに復号する機能がない場合などにも便利です。

ただし、復号して保存したファイルは、暗号化ファイルとは別のファイルとして保存され、再暗号化されません。

#### 操作

1. 暗号化ファイルをダブルクリックして起動します。
2. 暗号化時に設定したパスワードを入力し、[ファイルを開かず復号して保存]にチェックを付けて[OK]をクリックします。



3. 保存する場所とファイル名を指定します。

初期値ではマイドキュメント(ドキュメント)配下に保存されます。

※暗号化ファイルを起動したアプリケーションで[名前を付けて保存]を実行しても、同様に復号して保存することができます。

[名前を付けて保存]を実行した時は、初期値で以下の一時フォルダーとファイル名となります。

**マイドキュメント(ドキュメント)¥\$pusb¥[識別 ID]¥[識別 ID]+暗号化ファイル名**

[識別 ID]は、同名暗号化ファイルの重複保存を回避する目的でランダムに付加される ID です。暗号化ファイルを起動(復号)した時に、自動的に[識別 ID]フォルダーが作成され、暗号化ファイル名の先頭に[識別 ID]が付加されるしくみです。[識別 ID]フォルダーと[識別 ID]が付与されたファイルは、作業用の一時的なものであり、暗号化ファイルを終了する時に削除されます。起動した暗号化ファイルを復号した状態で保存したい場合は、[名前を付けて保存]で[識別 ID]フォルダー外の別フォルダーを指定してファイルを保存します。このとき、暗号化ファイル名の先頭に付与された[識別 ID]も削除して問題ありません。名前を付けて保存したファイルは、別のファイルとして保存され再暗号化されません。

暗号化ファイルを開いたときに一時領域に復号されたファイルは、他の復元ツールでの復号を困難にするため、利用終了後にデータをゼロクリアにして削除しています。

## 4. 使用上の注意／制限事項

### 4.1 復号処理

- 復号処理中に USB デバイスを強制的に取り出すと、ファイルの破損や復号の失敗が発生します。復号中はデバイスを取り出さないでください。
- 暗号化ファイルを開いたあとのコピー・印刷・保存操作は制御されません。すべて通常通りの操作となります。
- 復号中は一時領域に元ファイルが復元されているため、一時領域にアクセスすることで元ファイルを取得することが可能になります。
- 暗号化対象のファイル名やフォルダーパスが長い場合は、暗号化ファイルを開くことができないことがあります。この場合は、暗号化ファイル名やフォルダーパスを短くしてから開き直してください。
- 暗号化ファイルを開いたアプリケーションから、別途そのファイルを別のアプリケーションで開いて利用するような仕組みの場合、元のアプリケーションを終了してしまうと、別のアプリケーションで正しく開けないことがあります。また、開いた別のアプリケーションからは、再暗号化できません。(例 Windows フォトギャラリーのスライドショー)
- ファイルの起動プロセスから別のプロセスを起動するようなアプリケーションでは、ファイルを開けない場合があります。また、ファイルを開けても再暗号化を行うことができません。この場合には、復号ファイルが一時領域に残ることがありますが、PC の再起動によって削除されます。(例 Microsoft Office の互換パックを利用した新形式ファイルの利用)
- ファイルを1つのプロセスで開くアプリケーションでは、2つ目以降のファイルを開く時に確認メッセージなどが表示されたまま放置すると、正常に開けない場合があります。また、ファイルを開けても再暗号化を行うことができません。ファイルを開いた時のメッセージをすぐに処理すれば問題ありません。(例 Adobe Reader、Microsoft PowerPoint)
- ファイルを1つのプロセスで開き、かつウィンドウタイトルにファイル名が表示されないアプリケーションでは、一度開いたファイルはアプリケーションを終了するまで再度開けません。(例 Windows Media Player / Movie Maker)

### 4.2 再暗号化処理

- 再暗号化処理中に USB デバイスを強制的に取り出すと、ファイルの破損や暗号化の失敗が発生します。再暗号化中はデバイスを取り出さないでください。
- 元のファイル名と異なるファイル名で起動されるようなアプリケーションでは、ファイルの終了を正しく検知することができないため、再暗号化されません。(例 OpenOffice を利用して、MS Office の新形式ファイルを開いた場合など)
- ファイルを保存する時にファイル名を変更すると、再暗号化されません。再暗号化をする場合はそのままでの名前で保存してください。(上書き保存)
- 暗号化ファイルを起動した時は一時領域で復号されているため、ファイルを編集して保存する時に表示される保存先は、暗号化ファイルの場所とは異なります。
- すべてのアプリケーションで再暗号化されることを保証するものではありません。

## 4.3 その他

- 復号ツールはストアアプリに対応していないため、元ファイルに関連付けられたアプリケーションがストアアプリの場合開くことはできません。いったん暗号化ファイルを復号するか、その暗号化ファイルに対応したデスクトップアプリをインストールして開いてください。
- 復号ツールがインストールされていない環境では、暗号化ファイルをエクスプローラーなどで表示した場合、暗号化ファイルのアイコンは表示されず、Windows デフォルトのファイルアイコンが表示されます。
- USB デバイス内のアプリケーションを直接利用する場合、アプリケーションの動作は保証できません。アプリケーションの設定ファイルなどが暗号化され、アプリケーションが正しく動作しない可能性があります。

---

セキュアプライム UFE

復号ツールマニュアル

2025 年 12 月 15 日 第 13 版発行

発行所 株式会社ティエスエスリンク  
Copyright (C)2009 TSS LINK, Inc.

---